柏 中 2 学 年

ひだまり通信　75

’21. 6. 3

“道徳授業「ネット将棋」の感想(2 組＆1 組)”

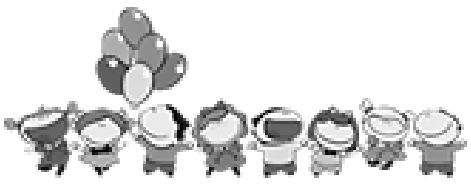
以前から将棋を指し合っていた僕と敏和。以前までは、僕が勝つことの方が多かったが、ある日から僕が敏和にかなわなくなる。聞くと、敏和はネット将棋をしているらしい。それを知った僕もネット将棋に取り組む。しかし、思った通りに進められず、途中でコンピュータを閉じたりログアウトをしてしまったりする。そんな時、明子と敏和の会話から、敏和がネット将棋で大切にしていることを聞くことになる。

↓

授業の感想

『顔が見えても見えなくても、責任を持って行動できるようにしていきたいです。』
『インターネットだからと言って、礼儀をしないのはダメだと分かりました。また、自分も日頃から頑張りたいと思います。』
『普段から相手のことを考えて、適切な行動をとることで周りの人から信頼を得られることができると思いました。今後は自分の気持ちを考え、取り入れつつ相手に同情の気持ちを持ったり、礼儀良く生活したいです。』
『人が見ていなくてもズルをしたりはせずに、積み重ねて信頼を得ていきたいです。』
『相手がどんな人でも、誠実に自分の能力を高めようとする姿勢が大切なのだと知りました。今後も相手に不快感を与えないような言動を心がけたいと思いました。』

『確かに自分が試されている感じはします。言わないことでどうなるのかなどと思う時はあります。今回は目に見える相手で、相手がどういう人なのかを少し知っている状態だったけれど、ネットゲームとなると相手の顔、年齢等が分かりません。ですが、遊ぶからにはきちんと始めと終わりの挨拶をするべきだと思います。それが礼儀で、お互いにとって良いことだと思うからするべきだと考えました。私は今回のロールプレイングゲームで、一回負けましたがやはり悔しかったです。でも、対戦してくれた感謝等をしっかり伝えていかないと伝わらないのだなと感じました。』
『目に見えない相手とどう向き合うかで自分が試されているという意見に、私はとても共感しました。きれいごとになるかもしれませんが、簡単に逃げられたりできる場でもしっかり挨拶やルールを守るという当たり前のことを当たり前にやる人の方が絶対カッコイイと思うので、自分がそのカッコイイ人になれるか試される場だなと私も思いました。実際にロールプレイしてみて負けた時、「参りました」というのはめっっっちゃ悔しかったです。』
『まず対戦というのは敵がいないとできないことです。だから、対戦してくれてありがとうという感謝の気持ちを持たないといけないと思います。知っている人だったら、勝った時に煽ったりなどふざけた行動をとるかもしれません。でも、もしその相手が全く関係のない人だった時に煽ったりとかは礼儀としてなっていないです。だから、これからも部活やゲームで感謝の気持ち、礼儀を欠かさずに行いたいです。対戦には勝敗が付き物だと思います。負けた時、自分はいつもイライラしてやめてしまいますが、これからは今回の学習を活かして負けを認め、次勝つためにどうすればいいかを考えていきたいです。何度負けてもあきらめずに立ち向かうことが勝利の扉の鍵になると思います。』



よのなかルール 32 <「メシを食える大人になる！よのなかルールブック」高濱正伸監修>

「「自分はひとりで生きられる」なんてかんちがいしない。」

人間は、寄り集まって、頼ったり助けたりして
生きていく生きもの。
「みんながいてこそ自分がいる」ということを
忘れないように。

学　年　目　標　『　ひ　だ　ま　り　II　』